

知恵の樹

No. 227 2018.9.25

町田の図書館活動をすすめる会
<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典
tejitaka@f8.dion.ne.jp

11/25(日) 【対・話・集・会】 どうなる？ どうする！

市民自治と社会教育 に参加を！

手嶋 孝典

昨年 12 月に公立博物館の所管に関する閣議決定を受け、中央教育審議会生涯学習分科会に設置された「公立社会教育施設の所管の在り方等に関するワーキンググループ」において議論が進められた。その結果、公民館・図書館・博物館等の公立社会教育施設を教育委員会の所管から、首長部局の所管へ移管を可能とする特例方針を取りまとめつつある。

更に文部科学省は、今年3月、中央教育審議会に「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」諮問をした。その「理由」にも、「所管の在り方」の検討の必要性が明記されている。

公民館・図書館・博物館等を首長部局で所管できるようにする特例措置については、政治的中立性の担保

も含め、教育機関としての役割が果たせなくなる、教育委員会の学校教育委員会化が一層進む、等々の問題点が指摘されている。

また、今年の 10 月以降、「総合的な教育改革を推進するための機能強化」を理由に、現行の生涯学習政策局(6課1参事官)が総合教育政策局(7課)に再編され、社会教育課が消滅することになっている。

そのような状況を踏まえ、本会やまだ未来の会が中心となり、9 月 15 日(土)に実行委員会を結成し、対話集会を開催することになった。文部科学行政の後退、変質を批判するだけにとどまらず、市民自治と市民型社会教育をどのように創りだしていくか、大いに議論する場にしたいと願っている。ぜひ参加を！ (代表)

日 時：2018 年 11 月 25 日(日)午後 1 時 30 分～5 時(午後 1 時開場)

会 場：町田市立国際版画美術館 講堂

内 容：基調講演(仮題)「市民の社会教育・生涯学習を求めて—文科省の組織改編にどう対応するか」

寺脇 研 氏(元文部官僚・京都造形芸術大学教授)

シンポジウムと対話

荒井 容子 氏(法政大学教授・社会教育学)

寺脇 研 氏(基調講演講師)

山口源治郎 氏(東京学芸大学教授・図書館情報学)

藺田 碩哉 氏(まだ未来の会代表・コーディネーター)

<わいわいタイム> シンポジストを囲んで

共 催：(公財)社会教育協会、三多摩図書館研究所、市民のミカタ(多摩市)、多摩市の社会教育を考える会、

まだ自治研究センター、町田の図書館活動をすすめる会、まだ未来の会(五十音順)

参 加：資料代 500 円、当日、直接会場へ(先着順)。

連絡先：まだ未来の会 ☎090(4703)8878 藺田

＜町田の公共施設を考える＞その2

「文学館、これからどうなる！これからどうする！」

まちだ未来の会 第15回学習会参加報告

守谷 信二

7月21日(土)、見出しの学習会が町田市民文学館第6会議室にて参加者25名により開催された。以下、意見交換の部分を一部割愛して掲載する。詳しい記録は、町田の図書館活動をすすめる会のホームページ内にある、まちだ未来の会のコーナーでPDFファイルを見ることができる。(再構成:手嶋 孝典)

意見交換:「市民としてこれから私たちにできること」

OH: 仮に文学館を委託したらコストは安くなるのか。

文学館にとって重要なアーカイブ機能は、コスト削減の対象として語れるような事業なのか。コストでは語れないから「公」がやっているのではないか。

守谷: 費用対効果といった議論の中で、文学館の意義や必要性を説いても、一般の行政担当者にはなかなか納得してもらえない。

SS: 町田市が市として文化的に生きていくために、どうしてもなくてはならない施設は、採算やコストの論理ではなくて、これだけは絶対に必要なのだという論理をつくらないと文学館は負けてしまう。

YH: 資料を整理して学校の空き教室なんか置いたら、死蔵になってしまう。必要な時に必要な人にすぐに出せないと意味がない。

HK: 2015年5月実施の「市民参加型事業評価」の時のやりとりはどうだったのかというのが気になる。このタイミングは、文学館とは何かについてしっかり伝えるチャンスでもあったはずだが、このことはもう済んだことというのではなく、これからも、自分ならどう応えるかという思いで調べておくことが大事と想う。

それにしても、「なぜ文学館が必要なのか」、「(文学館に)市民ニーズはあるのか」といった言葉がさらっと出て来る感覚には、これが町田の現状かと、ためいきが出る。文学館ができる前、確か2003年に「これが町田の文学館だ！—文学館の基本計画を考える—」というシンポジウムがあり、法政大学の田中優子さんが、文学館の役割を資料収集と展示に固定化してしまうのではなく、地域文化創造の視点を熱く打ち出しているようになければ文学館存立の意義はないということを仰り、強い印象を受けたのを覚えている。もう一度文学館設立の原点に戻ってみることも大事ではないか。

FF: いくら生涯学習とか文化行政とか言っても価値

観が違うというか、なかなか(行政には)言葉が通じない。相手の土俵に乗らずに、こちらの価値観が伝わるような方法、取り組みはどうしたら良いのか。

TN: 本当に通じない。絶対に。具体的に文学館の何が大切で、何を残したいのかを紙に書いて渡さないと、全然わかってもらえない。指定管理にしても、仕様書をどこまでしっかり書き込むかということが大事。それをちゃんとやらないといけない。チェックするのも大変なのだが。

OK: 事業評価とか、市民・有識者5名の判断で廃止するとかが決まっちゃうというが、行政側だけでなく文学館の利用者、実際に利用している市民の声をちゃんと出していくべきだ。

IM: 私も市の委員会とかいろいろ出たが、どうも結論ありきで、いくら意見を言っても座長がその方向に持って行ってしまう。本来ならなぜ文学館ができたのか、原点に帰ってきちんとと言わないといけない。それが1点。それから、こういうものはコストで辻褄が合うなんてことはない。私も現役時代たくさん会社を作ったが、民間会社だって赤字にならないが必要だからやるという部分がある。公共施設でコストの議論ばかりしたら、みんな無くさなければならない。

HR: 根拠を示して通るような世の中ではなくなっている気がする。価値観が変わってきているのは確かで、世の中「バカ化」している。こういう施設が存廃を問われるなどというのは、あり得ないと思っているが、そういう世の中になってしまっているのだから、そこまともな理論や理屈を言っても通らない場合が多い。特に文学館を使ってない人には、そういう人にもわかるような新たな文学館の役割を創る必要がある。

私は、文学館は学習面に力を入れるべきで、文学を学べる場であってほしいと思っている。過去の遺産に頼るだけでなく、未来に繋げていくための活

動を文学館は行うべきだ。私の弟も脚本を書いているが、みんな自己流でやっている。若い人がプロとしてやっていくための機会を、文学館が提供するというような取り組み。著名な先生がいて、これだけの若者がここで文学を学んでいますというような、分かりやすい根拠を示さないと文学館は守れないと思う。他の市町村ではやってないことを町田ではやっているという、新たなステイタスを作ることがいま求められているのではないか。

売れた作家がたまたま“町田ゆかり”で、それを取り上げて展示するのは簡単なこと。そういう作家がもっと生まれるように種を蒔く。そういうことに責任を持つ、面倒を見るというのも文学館の仕事ではないか。NY:文学館は開館当初から連句という伝統的な文芸の普及に力を入れている。大変すばらしいことだと思う。私は、連歌という世界に誇るべき日本古来の文芸をやっているが、文学館は連歌などにも力を入れて欲しい。

守谷:本日、お配りしたアンケートの4項目めで、「文学館がより良い施設となるために、市民としてこれからどのようなことを行うべきだとお考えですか」という問いを設けさせていただいた。文学館をサポートする市民の会の立ち上げなどについてはどうか。

AK:「友の会」というと版画美術館や鎌倉の図書館友の会とか、ファンクラブみたいなイメージがあるが、もっと違う形のものがあるって良いのではないか。

TT:版画美術館の友の会は、館の運営などにはあまり関わっていない。美術館事業への協力・支援を行う一方、会報の発行、サークル活動、美術館巡りなどの企画、ゆうゆう版画美術館祭を共催したりしている。またショップの割引などの特典もあるようだ。横浜市都筑区の図書館にもファンクラブがあって、お年寄りなどが楽しみに参加しているようだが、文学館はファンクラブではしょうがないし、そういう会は成り立たないと思う。

YH:図書館協議会の代表をしているが、役所側と対等に話し合うときに、それを支えてくれる市民の会がバックにあることは大変心強い。館の下請けを行う組織ではなくて、館を盛り立てるためにみんなで考える会は大切だと思う。

MN:さっきのHRさんの発言に賛成。館が市民から

サポートをしてもらおうというとき、日頃文学館からサポートされている市民がいれば、自然とサポートするはず。作家に限らず、これから何かをやらせようとする若い人たちを、編集者とか出版社とかと繋げるような役割が普段から果たせるようになっていっていると、文学館を大切だと思う若い人が増えて来る。

TY:いまの意見に賛成。文学館を持っているということは町の強さだと思う。東京の町田の、そこの経済的コストが云々という考え方をしなくとも、これから未来へ向けてのアーカイブ、これから未来の文学とかの受け皿、拠点にもなりうる。三浦しんさんが出て、村田沙耶香さんが出てきて、その前にむろん遠藤周作さんや片岡義男さんとか、すでにアーカイブはあるわけだけど、未来へのアーカイブの受け皿を持っているということはすごい強いことだと思う。

ひとつ考えたらいいかなと思ったのは、東京の町田市民にとってというだけでなく、16号線沿線のカルチャーとか、新しい武蔵野、多摩のカルチャーとか、アメリカでのサバービアとか、郊外型文学の拠点みたいな形で、ウエストコーストみたいに町田・吉祥寺・八王子・横浜・鎌倉とかがひとつの文化拠点になるかもしれないような芽を10年かけて出しているのに、いま効率的に採算が合うか合わないかでやってしまうのはとてももったいない気がする。

守谷:TYさんは町田で文芸誌を出されているが、文学館がプロを目指す若い人の後押しをするということについては。

TY:HRさんの言われることはすごくわかる。ただ、教育施設がやる「小説教室」みたいな形ではない、ある種“私塾”みたいなものがあると思う。あそこの文学館、何か変わったことやってるよ、みたいな。「早稲田文学」も「三田文学」もはじめはそんな感じだったんじゃないか。スポーツも良いけど、せっかく三浦さんみたいな人がいるわけだから出てきてもらって、10年、20年先の文学の受け皿となる町を。

HR:町田は絵を画いたり文字を書くにはかなり理想的な町。例えば家賃が安い。町がコンパクトで、すごく便利な町。アートでいうと絵を画くのは町田で十分なのだが、ただ発表の場がない。ギャラリーもあまりない。だからみんな南青山とかへ行く。そこに行けば編集者やデザイナーがいるから。せっかく町田で

生産されたものが外に行ってしまうので、もったいな
いと思う。町田が文化産業の都市を目指すという
ことになれば、芸術の町として栄えていく可能性が
あるのに、何もしていないからみんな外へ行く。文
学館は、若者をサポートする役割が持てると思うし、
若者に支持されれば行政は必ずそっちに顔を向け
るようになる。

SS: 思うのは、「文学館を守る」じゃダメで、「もう一
回、新しい文学館を創る」という発想が大事じゃない

かということ。いままでの積み重ねはあるが、それだ
けでは守り切れない。今日出た提案を活かせるよう
な、この町の誇りとなるような文学館をこれから創っ
ていこう。新たな文学館運動を始めようではないか。
近々、数名の方に集まってもらって、再度これから
の具体的な取り組みを話し合ってもらいたい。

守谷: 提案のように改めて集まりを持ちたい。ご発言
いただいた方々には、後日日程等をご連絡するの
でぜひご参加を。 (会員)

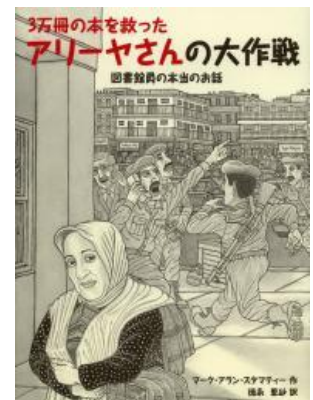
こんな本み〜つけた！ (第11回)

『3万冊の本を救ったアリーヤさんの大作戦』

図書館員の本当のお話』

マーク・アラン・スタマティー／作 徳永里砂／訳

国書刊行会 (2012年) 紹介: 松下 佑子 (金森図書館)



2003年、イラク戦争が始まった頃に実際にあったお
話です。バスラ中央図書館で働くアリーヤさんは、大好
きな本に囲まれ、司書として、たくさんの人々とその楽
しみを分かち合える喜びを感じていました。しかし侵略
のニュースを見る度に、何か良くないことが図書館に起
きるのではと、とても不安でした。その昔バグダッドの
大図書館は、モンゴル軍の侵略により焼かれ、たくさん
の本が失われてしまったのです。

バスラの図書館がそうならないために、アリーヤさん
はバスラ県庁に図書館から本を運び出すことをお願い
しますが、却下されてしまいます。それから間もなくし
て戦争が始まり、どうにかしなくては必死に考えたアリ
ーヤさんは、自力で本を運び出す決断をします。自ら

の命を危険にさらし
ながらも、近所の人
々の協力もあり、救出した本の数は3万冊にもなった
のです…！！

この本を読んでいると、戦争の足音が迫りくる中、何
とかして本を助けたいという1人の図書館員の強い想
いを感じ、また、周りの人々もアリーヤさんと同じよう
に図書館・本をととても大切に想っていることが伝わってき
ます。

町田市立図書館では中央・忠生図書館が所蔵して
います。同じことを絵本にした『バスラの図書館員』(晶
文社刊)もあります。こちらもぜひ読んでみて下さい。

(会員・自治労町田市図書館嘱託員労働組合)

第17期図書館協議会 第9回定例会報告 (報告者 清水 陽子)

2018年7月23日(月)午後2:00~3:15 中央図書館・中集会室 傍聴者:1名

【報告事項】《館長報告》

1. 教育委員会 第4回定例会 7/6日(金)

・町田市生涯学習審議会への諮問について

1) 町田市民文学館の存在意義、2) 存廃、3) 適正
な管理運営手法について7月審議会で諮問。Q: 諮
問期間は? ⇒A: 10月か11月に答申と思われる。

・町田市民文学館運営協議会への諮問について

1) 実施事業の点検・評価、2) 施設管理に関する点
検・評価を7月の運営協議で諮問。Q: 運営協議会
に存廃の答申は? ⇒A: 運営協議会は事務的なこ
とを協議する場。Q: 答申は重く受け止められるのか
⇒A: そうであるが答申通りにはならない場合もある。

2. その他

・子ども読書活動推進計画推進会議: 第1回 6/29

(金)年2回開催、今年度1回目 昨年度後半の報告と委員の意見

○出席委員:おはなし会ボランティア間のネットワークはなく図書館も把握していない。図書指導員の業務内容や研修、学校図書館システム更新を教育センターが実施、学校読み聞かせボランティア、保育園、幼稚園の読み聞かせ講座について報告あり。

Q:図書館の学校図書館支援計画は?⇒A:現在の支援貸出は不十分。諸計画に学校図書館充実は

示されているので、支援方法を検討中。意見:制度設計が重要。学校教育部ともよく協議して欲しい。

【協議事項】

1. 図書館評価について:図書館より協議会へ評価を依頼:提出期限 10 月末。

2. 図書館 HP について:○議事録を図書館の取組みページに移す時期は?⇒定期的にするように検討する。○定例会配布資料も議事録と一緒に HP に掲載して欲しい⇒検討する。

第 17 期図書館協議会 第 10 回定例会報告(報告者 清水 陽子)

2018 年 8 月 28 日(月)午後 2:00~3:40 中央図書館・中集会室 傍聴者:なし

【報告事項】《館長報告》

1. 教育委員会 第5回定例会 8/3(金)

・2018 年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について 図書館部分

○「重点事業5 地域活動の支援」学校でおはなし会をする保護者のための読み聞かせ講座、レファレンス機能の PR が課題。Q:まちともや学校図書館の支援とは?⇒A:主に学校だが資料費が削減されていて満足に支援できない。来年度予算では学校支援に使う資料のための予算を増やしたい。

○「重点事業3 地域資料の活用の推進」中央館に集中する資料はデジタル化で地域館利用も。予算が付かず進んでいない。Q:地方行政資料は市の他部局も関わる。連携して予算獲得ができないか。⇒A:財政当局も価値は認めるが予算が取れない。

第 1 回臨時会 8/20(月)

・町田教育プラン 2019-2033 図書館所管部分
○原案資料配布なし(9/12 文教社会常任委員会学校教育部行政報告第 63 号資料として HP 公開)。「基本方針Ⅳ:生涯にわたる学習を支援する◎施策1 学びにきっかけとなる機会を提供する◎施策2 学習を“広げる・深める”を支援する◎施策3 学習成果を活かす機会を充実する◎施策4 学習を支える環境づくりを進める」Q:教育プランの特徴は?⇒A:家庭・地域の教育力向上を基本方針。生涯学習では今ある資源を有効活用、市民の自発的学びを支援すること。Q:施策2で「文学の扉」事業以外の重

点事業は?⇒A:町田の歴史や文化を活かした学習事業など。○意見:自発的な学習が重視されるが、その場としての図書館の役割が大きい。Q:本と出会う場の創出とは?⇒A:図書館以外に文庫を含め、市民が場や情報共有を可能に。図書館が中心に。Q:学校図書館との連携強化とは?⇒A:学校図書館の制度設計の中で、図書館のすべきことを考える。Q:物流については?⇒A:運転手の問題もあるので検討課題。

2. 第3回生涯学習審議会 8/21(火)

文学館についての審議:存続については全員賛成の模様。Q:諮問から答申までの期間が短いがまとまるのか?⇒A:指定管理については委員の意見は一致しない。意見:一つの職場で運営態様が複数あると効率性が低下する。委託は望ましくない。

3. 協議会議事録 HP 公開:1年2回現在のイベントおすすめ情報項目から取り組み項目へデータ移す。

次回 第 17 期図書館協議会第 11 回定例会

10 月 22 日(月)午後3時~ 町田市立中央図書館・中集会室にて 傍聴自由ですが、休館日につき、事前連絡が必要です。☎042-728-8220

まちだ未来の会 第 17 回学習会

「指定管理者制度」ってなに?! - その目的・枠組み・現状 -

日時:10 月 14 日(日)午後 2 時~4 時 30 分
会場:町田市民フォーラム 4階 第2学習室A
申し込み:直接会場へ/資料代 300 円



ひるば

例会 7/24 (火) 報告

- ・16:30～ 印刷・発送作業等:伊藤・久保・鈴木(真)・手嶋・松下・守谷
- ・18:45～20:20 中央図書館・中集会室
出席:石井・伊藤・久保・鈴木(真)・手嶋・松下・守谷

議題

1. 会報について

No227:巻頭言 未定⇒11月25日(日)の対話集会について(手嶋)、図書館協議会第9回定例会報告(清水・山口)⇒第10回も、「こんな本見〜つけた!」第11回(松下)、まちだ未来の会第15回学習会記録(守谷)

2. 今年度の活動計画について

「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」への対応

まちだ未来の会と連携して活動する。

「すすめる会」独自の取り組みも行う。

講演会+シンポジウム

寺脇研氏(元文部科学省局長でゆとり教育の推進者、京都造形芸術大学教授)の基調講演とシンポジウムの開催を企画。(以下は例会以降の情報)寺脇氏から快諾が得られ、開催決定。⇒9月15日(土)第1回実行委員会を開き、11月25日(日)午後1時半～町田市立国際版画美術館で開催決定。

3. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

まちだ未来の会の取り組み

・学習会

第14回学習会(「すすめる会」との共催):久保・守谷担当(実施済み)

<町田の公共施設を考える>その1 私たちにとって図書館とは!

日時:6月30日(土)午後1時30分～4時30分

場所:中央図書館ホール

参加者:32名

第15回学習会:鈴木・守谷担当(実施済み)

<町田の公共施設を考える>その2 文学館、これからどうなる!これからどうする!

日時:7月21日(土)午後2時～4時30分

場所:町田市民文学館第6会議室

参加者:25名

第16回学習会:菌田さん、手嶋担当

<町田の公共施設を考える>その3 生涯学習センター

日時:9月17日(祝・月)午後2時～4時30分

場所:町田市生涯学習センター

*生涯学習センター関係者と打ち合わせを行った(7/17、7/21)。(以下は例会以降の情報)⇒その後、9月9日(日)生涯学習センター関係者を含めた拡大世話人会を開催した。

「すすめる会」の取り組み

・鶴川図書館、さるびあ図書館を存続させる運動をどう創るか?

◎月1回、鶴川団地地域支え合い連絡会が買い物支援事業を開始。9月は図書館にも回る予定。買い物バスによる地域支援活動は、川崎市麻生区が先進例。

4. 学校図書館指導員について

その後の進捗状況:情報なし

5. 第8回まちだ図書館まつりについて

◎6月28日(木)第1回説明会が実施されたが、出席者の意見を丁寧に聞いていた。2017年度の反省点として図書館側の熱意やPR不足があることがきちんと図書館に伝わっていると感じた。こちら側に熱意があることも伝わったと思う。

[すすめる会として図書館まつりにどうかかわるか]

スケジュールと相談しつつ、講演会を開催する等できる範囲で参加する。8月28日(火)第1回打合せ会。

6. その他

◎2020年度から会計年度任用職員制度が適用されるにあたり、図書館嘱託労では「市民の協力」も求めている。具体的にどう協力したらいいか。⇒次回、回答する。

報告

1. 図書館協議会第9回定例会報告

「知恵の樹」No227 4、5頁参照。

2. 団体及び個人からの報告

野津田・雑木林の会:7月17日(火)三者(市当局、指定管理者、野津田・雑木林の会)会談を継続。第33回のづたの丘の上秋まつり11月3日(祝・土)開催。

図書館六分会協議会:7月19日(木)職場要求団交。

柿の本文庫:8月29日(水)夜語り、午後7時～開催。

《編集後記》日本国憲法を全文読み直す機会を持った。全く忘れていた条文もあり、改めて憲法を学び直す必要を感じた。安倍総裁三選により憲法が危機。(T²)